

事業目的

本事業では鷓川・沙流川流域3町を取り巻く環境や観光客ニーズ等の調査・分析を行い、そこから見える課題の抽出と把握をしたうえで、その後の来訪者の誘引を図り、交流人口の拡大につなげていくことを目的とする。

実施内容

- STEP 1 外部環境・内部環境をデータ分析し、現状を客観的に捉えました。
- STEP 2 実際の来訪者・受入側へアンケート調査を行い、それぞれのニーズ把握を実施しました
- STEP 3 検討会議及びワークショップにて方向性を検討いたしました。

次年度以降の展開に向けた最終提言を行いました

3町を繋ぎ合わせるテーマとして「エデュケーショナルツーリズム」を推奨します。

この地域に脈々と受け継がれるアイヌ文化、国内屈指の全身骨格化石等の恐竜ロマン、日高の自然と融合した馬文化は、的確なターゲットに訴求することで、この地域に観光客が「わざわざ訪れる目的」となり得る。エデュケーショナルツーリズムとは、これらの3つの資源を軸に、統一のテーマ「エデュケーション」でつなぎ、さらに海、山、川が織りなす自然景観や自然を活用したアクティビティ、野生動物や、地域の風土が育んだ食と結びつけ、誘客を促し、地域へ周遊させるしくみを作り出すことである。

更に3町それぞれに小テーマ、ストーリーを持たせることで各町の特徴をわかりやすくデザイン化・可視化することでわかりやすくエンドユーザーへ伝えていきます。

平取町・アイヌ文化を中心とした「ヒストリーツーリズム」

むかわ町・恐竜を中心とした「サイエンスツーリズム」

日高町・軽種牡馬や日高山脈に囲まれた大自然を中心とした「ヒーリングツーリズム」



SETP1: データ分析による現状の客観的把握

◆外部環境分析

- ① 北海道の観光客入込数 2015年度は5,477万人と増加傾向である（前年比101%）
 - ② 外国人観光客入込数 2015年度は208万人と対前年比135%増と伸び率が顕著である。
- ※外国人観光客の消費額は道内客の約10倍、道外客の約1.8倍とかなり高いことがわかる。

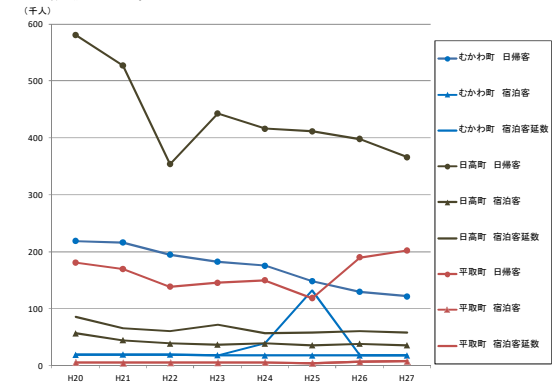
・札幌市・登別市・苫小牧市の季節波動

3市ともに観光入込客数は8月がピークであるが、外国人宿泊客に限っては札幌市と苫小牧市は2月、登別市は12月の冬季がピークである。

◆内部環境委分析

- ① 大きな課題として3町は都市圏（札幌）に近く、観光客入込数の約92%~93%が日帰り客である。
- ② 3町の日帰客、宿泊客、宿泊客延数に比較と推移

日帰客が最も多いのは日高町だが、近年減少傾向が続いている。一方、平取町の日帰客は平成25年まで3町の中では最も少なかったが、平成26年からむかわ町より多くなり、増加傾向にある。



SETP2 : 来訪者・受入側へのニーズ調査による過課題抽出

◆来訪者ニーズ

鷓川・沙流川流域で行われたイベントに訪れた観光客を対象にアンケート調査を行い718サンプルを回収しました。

当地区に訪れた目的として道外からの来訪者は「地域の文化を体験すること」が45.9%と一番高く、次に「自然景観を見る事(44.6%)」「美術館・博物館を訪れる事(31.1%)」と続く。またSNSを活用した来訪調査においては地区的特徴として競馬ファン(道内14.3%、道外7.4%)が居ることも顕著である。

◆受入側ニーズ ※詳細については別紙調査事業報告書をご参照ください。

観光関連事業者の主なご意見としては

- ・イベントへの誘客促進を行うための効果的な連携とプロモーション強化
- ・町のストーリーの明確化
- ・季節、テーマを絞ったターゲット設定、ルートづくり
- ・3町間の相互理解

が今後の課題であることがわかりました。

SETP3 : 検討会及びワークショップの方向性の検討・共有

◆検討会の開催

- ・第1回 2016年11月28日(月) 26名 各調査事業から見える現状課題の共有
- ・第2回 2016年12月21日(水) 23名 観光ニーズ把握とプロモーション内容の検討
- ・第3回 2017年1月27日(金) 17名 3町のストーリーやテーマに関するグループワーク
- ・第4回 最終提言